



シルバー人材センター
キャラクター「チエフクロ」

高齢者が働くことに生きがいを感じ、地域社会に貢献する

VOL. 19

令和3年8月1日号

NARITA

銀のたまご



特集 シルバー植木班

親切丁寧な仕事で大人気

公益社団法人 成田市シルバー人材センター

特集 シルバー植木班

親切丁寧な仕事で大人気

シルバー人材センターの行う仕事の中で、個人や会社などから毎年多くの依頼を受ける植木の管理業務。今回はその剪定作業などで活躍する「植木班」をご紹介します。



植木は管理が大事

木々の緑はわたしたちの生活に潤いを与えてくれるとても大切なものです。景観の保全や防災面でも緑の果たす役割は重要で、個人の庭や会社の敷地、公園などには必ず樹木が植えられています。

このように大切な役割を持った樹木ですが、木は年々成長するため放っておくとその機能を果たさないばかりか、さまざまなトラブルの元にもなってしまうます。特に隣地に伸びた枝や大量の落ち葉などが原因で争いが生じることもあります。また道路に生け垣がせり出して通行の妨げになっている事例などもよく目にします。樹木(植木)は適正な管理をして初めて景観や役割を保つことができるのです。

剪定は知識と道具が必要

植木は雑草とは違い、引き抜いて終わりというわけにはいきません。特に植木は適切な時期に適度な長さに枝を切らなければならず、余程園芸に興味のある人でもない限り個人で簡単にできるものではありません。こうした植木の剪定依頼にお応えしているのがシルバー人材センター植木班です。一般家庭から会社敷地

内、公園や公民館など公共施設の植木剪定に至るまで、あらゆる種類の植木や植栽の管理業務をお引き受けしています。
料金も民間に比べ割安なうえ、シルバーならではの親切丁寧な仕事をぜひご評価いただき、多くの皆様がりピーターとなられ、毎年ご利用されています。

【クイズ】 植木の豆知識

隣の家から伸びた柿の実やタケノコは取っていいの？

答え

民法 233 条では「隣地の竹木の枝が境界線を越えるときは、その所有者にその枝を切除させることができる」となっています。したがって所有者に枝(実)を切るようお願いはできますが、勝手に柿の実を取ることではできません。ただし、侵入した根は切ってよいことになっていますから根の一部であるタケノコは取ってもよいこととなります。





技術は専門業者と変わりません

会員の技術と経験を活用

シルバー事業は「高齢者の就業による生きがいづくり」を主な目的としています。植木班も同様に、会員の持っている造園に関する知識と技術を生かし、地域社会に寄与することを目的として活動しています。

現在の植木班の会員は、男性のみの26人で構成されています。会員の平均年齢は72・5歳で、入会してからの経験年数は平均で6年半ほどです。経歴で見ると、現役時代に造園

業に就いていた者や、一般の会社を退職した後に造園の研修を受けた者が23人、その他が3人となっています。「その他」は植木の剪定などを特技としている会員で、技術は専門業者と同等のレベルです。退職後に造園の研修を受けた人でも、自宅などでの植木剪定を含めれば経験年数は30年以上の「職人」です。このような会員の豊富な経験を生かし、皆様からの依頼にお応えしています。

体力に応じて就業

シルバー人材センターでは会員の体力などに配慮し、就業は土日、祝日を休業としています。植木班もこのルールに従って就業していますが、雨などで順延になったものについては、止むを得ず休日に作業を行っています。また、暑さが厳しい時期は会員それぞれが一定期間の「夏季休暇」を取得し、健康面に配慮した就業体制を取っています。

なお、植木班は造園業者ではないため重機もなく、会員も高齢であることから、4mを超える高所での作業が必要な庭木については剪定業務をお断りしています。その他にも作業に危険を伴う場所の剪定や樹木の消毒などもお引き受けできませんのでご了承ください。

切った枝木は市の処理場へ搬入します

剪定作業で発生した枝木・草などのゴミは成田市の許可を得て、有料で成田富里いずみ清掃工場へ搬入しています。処理費用は作業料金とともに後日依頼者への請求となります。なお、搬入した枝木等は破砕処理された後、ウッドチップや加工板として再利用されています。

※作業時に敷地内でビン、缶、ペットボトル等を回収しても収集運搬許可業者でないため、枝木と一緒に処理場へ持ち込むことはできませんので発注されたお客さまで処理をお願いすることになります。



成田富里いずみ清掃工場(小泉)



台貫に乗って重さを計ります



ストックヤード枝木置場へ

特集 シルバー植木班

技術を研ぎサービス向上

定期的に講習会を開催

シルバー植木班の経済的で丁寧な仕事ぶりが市民の皆さんに浸透したせいか、新規利用者の8割のお客様が引き続きご利用されています。毎年センターが実施している顧客アンケート調査でも、出来上がりや接客、就業態度について約9割の人から「大変満足」「満足」との回答をいただいています。植木班では利用者からのこうした声に応えるため、更

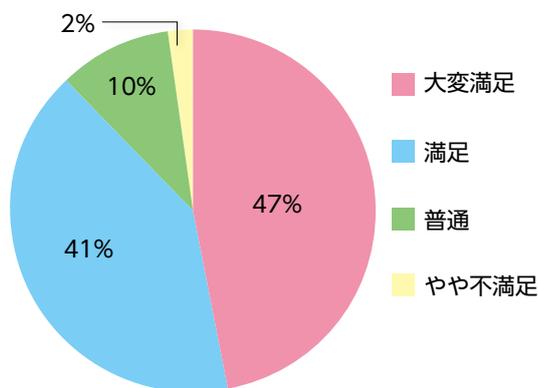


松の手入れを学ぶ班員

なるサービス向上と会員の技術の向上を目指し、定期的に接客や剪定方法の講習会を行っています。

植木は種類も多く、剪定の方法もさまざまで、経験豊富な会員でもどのように作業をすればよいか迷う場合があります。植木班では、お客様の大切な植木に対し、常に最適な剪定作業を実施できるように会員の技術の向上に努めています。講習会では、特に手間のかかる種類の植木を題材に選び、専門の講師から剪定のポイントを学び日頃の就業に生かしています。

作業内容(出来上がり)はいかがでしたか



植木班から



感謝の言葉で
一日の疲れも
吹き飛びます

野澤 宏暢さん

シルバー人材センター植木班は腕に覚えのある？会員が集まった職人集団です。軽トラックの荷台に長尺脚立を乗せ成田の街を東奔西走、目立ちますからすれ違った時は仲間同士で軽く右手を上げ、お互いの健康と絆を確認します。個人住宅から学校、公民館、会社敷地など、大小さまざまな樹木の剪定や整枝作業を広範囲に行っています。植木の手入れは全てがオーダーの特注品ですから、現場ではお客様の要望を確認しながら慎重に、そして安全第一で作業をしています。夏は植木剪定の繁忙期と暑さが重なり厳しい季節ではありますが、お客さまから「ありがとう。綺麗になりました」という感謝の言葉をいただくと、達成感と満足感で一日の仕事疲れも一瞬で吹き飛び、明日も頑張ろうという気持ちになります。

利用者の声



丁寧な仕事と
仕上がり
に満足しています

海保 和代さん(飯岡)

これまで庭木の手入れは自分でするなり知人に頼んだりしてきましたが、シルバー人材センターが自宅から近いこともあり、ここ3、4年は植木班の皆さんにお願いしています。現場の下見ではこちらの要望をよく聞いてくれるうえに、樹種に適した剪定方法なども提案していただけるので安心してお任せしています。丁寧な仕事と確かな仕上がりにとっても満足していますが、剪定した枝葉の搬入時間に制約があるようで、高齢の班員が午後から精一杯仕事をされているのを見ると少し心配になりますね。それだけに事故無く作業を終えるとこちらもホッとします。植木剪定に限らず、シルバーの皆さんが長年培った豊富な知識と経験を生かし、余力を地域に還元してくださることは素晴らしいことだと思います。これからも植木の剪定は是非シルバー植木班にお願いしたいですね。

仕事の依頼は今すぐセンターへ

皆様からの植木剪定の依頼を最初にお受けするのはシルバー人材センターの事務局で、そこで受注した内容が植木班員に伝えられます。その後の現場規模に合わせた人員配分、下見打ち合わせ、見積り、剪定作業、完了報告までが植木班の仕事となります。

植木剪定業務は、一般家庭だけでなく会社などからの依頼も多く、しかも剪定時期が一緒ですから夏場の最盛期などは作業が追い付かなくなることもあります。

また、植木剪定は、外の作業となるため雨などで予定通り就業できないこともありますから、センターの利用を予定されている方は、なるべく早めにお申し込みください。

お引き受けした仕事は、植木班員が責任を持って完了させますので、



まずは事務局へご連絡ください



見積りには植木班員がお伺いします

安心してお任せください。シルバー事業は会員の生きがいづくりを目的としているため、低料金で仕事をお受けしています。

頼みたい仕事がありましたら、今すぐセンターへご相談ください。

センターでは、植木剪定、除草作業のほか、見回りなどをセットにした空き家管理についてもお引き受けしていますのでお問い合わせください。

※くわしくはシルバー人材センター事務局(☎0476-361616)へ

植木班ではこんな仕事もお引き受けします

植木班では庭木の剪定と合わせ竹垣づくりや菰かけ作業といった造園の仕事もお引き受けしています。庭の竹垣が古くなって壊れている、新しく竹垣を作りたいと思われる方はぜひご相談ください。また、菰かけなどの庭木の害虫対策についても相談に応じています。

竹垣づくり

竹垣は敷地の周囲を囲うものと、庭の修景用として庭木や玄関周辺に設置するものなどがあります。竹の組み方、しゅろ縄の結び方などもさまざまですが基本はお客様の注文に合わせることに。そのため技術もさることながら指定の材料をそろえることも重要な仕事です。



菰かけ作業

晩秋に松の木の枝葉から寒さを逃れるために降りてくる毛虫を、暖かい場所に誘い込み捕獲するため幹の途中に菰を巻いておく作業で、3月頃に入れた害虫を処分します。毛虫が潜り込めるくらいの隙間が出来るようにしゅろ縄を縛る強さを加減するのがポイントです。



令和3年度定時総会を開催

成田市シルバー人材センター令和

3年度の定時総会が6月14日(月)午後2時よりセンター会議室において開催されました。今年も昨年同様コロナ禍のため、会員へは議決権行使書の提出を呼びかける形で行なわれました。委任状・議決権行使書を含めた380人が出席した総会となりました。

定款第16条の規定により、下村精哉理事長が議長に選出され、定足数の報告後、定足数充足及び議事録署名人の確認をし、開会を宣言しました。



議事

報告事項

1. 令和2年度収支補正予算の件
2. 令和2年度事業報告の件
3. 令和3年度事業計画の件
4. 令和3年度収支予算書等の件

議案第1号

令和2年度貸借対照表、損益計算書(正味財産増減計算書)及び財産目録承認の件 監査報告

議案第2号

公益社団法人成田市シルバー人材センター定款の一部変更の件

議案第3号

理事1名選任の件

提出された3議案は出席会員多数の賛成によりすべて原案のとおり可決され、総会は無事終了しました。

総会後、開催された臨時理事会において、業務執行理事に後藤勝氏が選任されました。なお、後藤氏はセンター事務局長も兼任します。



後藤勝業務執行理事
兼センター事務局長

コロナ禍におけるシルバー事業への影響

就業先が相次ぎ休業

シルバー事業では、公共や民間企業、一般家庭から多くの仕事を受注していますが、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う公共施設および民間企業の休業や利用制限等により、会員の就業機会が大幅に減少するなど大きな影響が出ました。

契約額が18.7%減に

本センターの事業にも大きく響き、年間で契約件数が279件、契約金額では、42,457,161円の減、率にして18.7%の減少になりました。

センターでも予防対策

事務局では、職員や会員から感染者は出さないという意識を持つとともに、あじさい通信を通じて会員に感染予防対策を呼び掛けました。

また、職員全員が濃厚接触者となり事務局を閉鎖することがないように、職員の2交代制による在宅勤務を導入する一方、飛沫感染防止対策としてカウンターと職員の机の間にパーテーションを設置するとともに、手指の消毒液・体温計を置く措置をとりま

した。国内では、4月から高齢者へのワクチン接種が始まっていますが、まだまだ安心して生活が送れるわけではありません。

会議やイベントが中止に

3月初旬に予定していた、本センター主催イベント「シルバー祭り2021」を中止しました。また、令和2年3月から緊急事態宣言が解除されるまでの会議や入会説明会は出来る限り中止としました。

入会説明会を再開

入会説明会は感染拡大を防止するため令和2年6月から予約制で再開しました。説明会に参加される方にはマスクの着用と入口での手指消毒、検温にご協力をお願いしています。

コロナウイルスと共存

現在、センター関係者から一人も感染者を出すことなく事業運営を実施できているのは幸運かもしれませんが、長引くコロナ不況に今後センターとしてどのような対応をしていけばいいのか課題は山積みです。

会員の声

「仕事は誇りと使命感を持って」

齊藤 英行さん



わたしがシルバー人材センターへ入会したきっかけは、毎日行っている犬の散歩の途中で青色回転灯を付けた防犯啓発車(通称通パト)を見かけたことです。その仕事を担当しているのがシルバーだと分かり、あれなら自分にでもできるのではないかなと思ったからです。正式な業務名の「通学路防犯広報啓発活動」という名称は就業してから知りましたが、やはり通パトと言った方が一般的だと思います。

日常生活では、健康を害するといわれている酒とたばこをこよなく愛し続けること50数年。お酒は先ずビールで喉を潤し、その後は焼酎や日本酒、最近はハイボールも多くなりました。たばこは酒よりも体に悪いと知りつつ、禁煙を試みるも長く

ても半年しか続かず、誘惑に負け今日に至っています。

お酒は、適量を飲む分には「百薬の長」と、自分に都合の良い言い訳をしながら飲み続けていますが、毎日美味しく楽しく飲むためには、週1回でも2回でもいいから働いて汗をかくことだと思っています。今の自分にそれを与えてくれるのがシルバー人材センターでの仕事だと思っています。

わたしも通パト業務を約3年、続いて公園清掃業務に就業して現在に至ります。通パトの運行では、警察のパトカーが交通事故でも起こらない限り入って行かないような地区でもくまなく防犯啓発をしています。地域の安全安心を守ることに、とてもやりがいを感じていました。現在行っている公園清掃では、吸い殻一本も見落とすことがないよう気を付け、公園を利用する市民の皆さんが気持ちよく過ごせるようにとの思いで業務についています。

このように、何の仕事にせよ、それぞれの目的があります。私はいつも誇りと使命感を持って、シルバーの仕事に取り組んでいます。これからも成田が安全安心な住みよい町になるよう少しでも貢献できればと思っています。

動 報 告

女性会員のための健康講習会

5月21日、女性会員12名が参加し「女性会員が元気で楽しく就業を続けられる仲間であること」をテーマに、救急救命とノルディック体操を中心とした交流会を開催しました。

救急救命講習では、成田市消防本部の永嶋主幹、田村主査が講師となり2体の人形を使用したコロナ禍においての心肺蘇生、AEDの使用方法を実演。その後、会員が実際に救急救命を体験しました。会員からは心肺蘇生の時間やAEDパッドの装着場所などについて様々な質問もありました。続いて小野智子保健師によるノルディック体操(ノルディックウォーキング前に行う体操)の指



AEDを使った心肺蘇生

導があり
ました。
まず始め
にスニー
カーの正
しい履き
方、次に
体操に使



ボールを腰に当ててストレッチ

うボールの調整の仕方の説明があり、実際にボールを使用した場合としない場合のストレッチを体験。ボールがあるだけで、不安定になりがちな体勢でも無理なく行えることが分かりました。最後にボールを使ったウォーキングも行いました。

どちらの講習も初めてという会員がほとんどで、「心肺蘇生を続けるのは力もいるので大変だった」、「AEDは思ったほど難しくなかった」、「ノルディック体操と聞いて難しそうと思っていたが、実際にやってみるとボールがあるので無理なくできた。楽しかった」との感想を聞くことができました。有意義な時間が過ごせ、楽しい交流会となりました。

わたしの趣味 —太極拳—

堀内 利枝 会員(土屋)

太極拳を始めて約20年、きっかけは友人に見学に誘われたことでした。激しい運動ではなかったことや、その当時の職場の環境が変わり、余裕ができたことが長く続けられた理由だと思います。現在、「加良部太極拳」というサークルで指導を受けながら活動しています。太極拳は中国の武術の一種で、健康体操としての「二十四式太極拳」と



太極拳で使用する剣と扇

剣を使用した「三十二式太極剣」があり、その両方を行っています。音楽に

合わせゆっくりですが、膝を曲げ腰を沈めて体を動かすので、かなりの運動になります。おかげで足腰が丈夫になりました。動きが独特でうまくできないこともありますが、これまで長く楽しくできたのは、信頼できる指導者に出会えたこと、たくさんの知り合いができたこと、縁の下の力持ちとしてチラシ作りなどサークル活動に貢献できたことだと思います。二十四式太極拳は朝の清々しい時間に、広い場所でなくても一人で楽しめることも魅力の一つです。今では曲がかかると勝手に体が反応してしまいます。

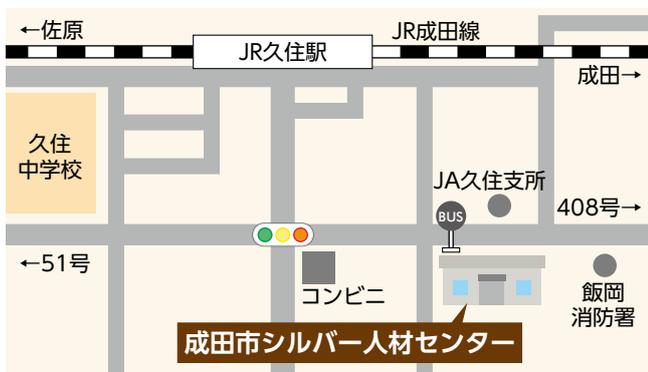


事業実施状況報告

事業実績報告		令和元年度	令和2年度
会員数	男	382人	380人
	女	96人	97人
	合計	478人	477人
就業実人員		451人	419人
就業率		94.4%	87.8%
受託件数	公共機関	523件	477件
	民間企業	841件	764件
	一般家庭	1,901件	1,745件
	合計	3,265件	2,986件
契約金額		226,686千円	184,229千円

会員数は変わらず、契約金額は減少

令和元年度と比較すると会員数は、ほぼ横ばいでしたが、女性会員は100人を割ったままでこの人員拡大が課題となっています。人気の植木剪定や除草の受注は、相変わらずお盆前や年末に集中し、作業が2カ月以上待ちの状態となりました。令和2年度の受託件数は、新型コロナウイルス感染拡大(6ページ参照)の影響を受け、前年に比べ大きく減少しました。特に契約金額が大きかった就業先が減少したこともあり、契約金額は42,457千円の減となりました。



編集・発行 公益社団法人 成田市シルバー人材センター 広報部会
 〒286-0819 成田市久住中央1丁目12番地3
 TEL 0476-36-6161 FAX 0476-36-6711
<http://webc.sjc.ne.jp/narita/index>
 E-mail : narita@sjc.ne.jp

〈受付時間〉
 月～金曜日 午前8時30分～午後5時15分
 (土日・祝日、年末年始除く)



編集後記

コロナ禍の影響で前回休刊となった本号ですが、今回は特集で植木班を取り上げることになりました。前号で掲載する予定であったため、冬場に行う蒔かけや竹垣づくりは予定通り取材を実施。写真の冬らしさはそのためです。ところで竹垣を作るのがなぜ冬かといえば、材料の竹を切り出す適期が11月以降となるため、以前はそのころになると山に竹を切りに行っていました。取材をしながら自分でも作ってみたいくなり、早速親戚の竹山へ直行。日頃草刈りボランティアなどをしている「さくらの山」の園路で試作してみました。意外な出来栄えは同公園に行かれたときにご覧ください。ただし垣根の注文は植木班にお願いします。

